

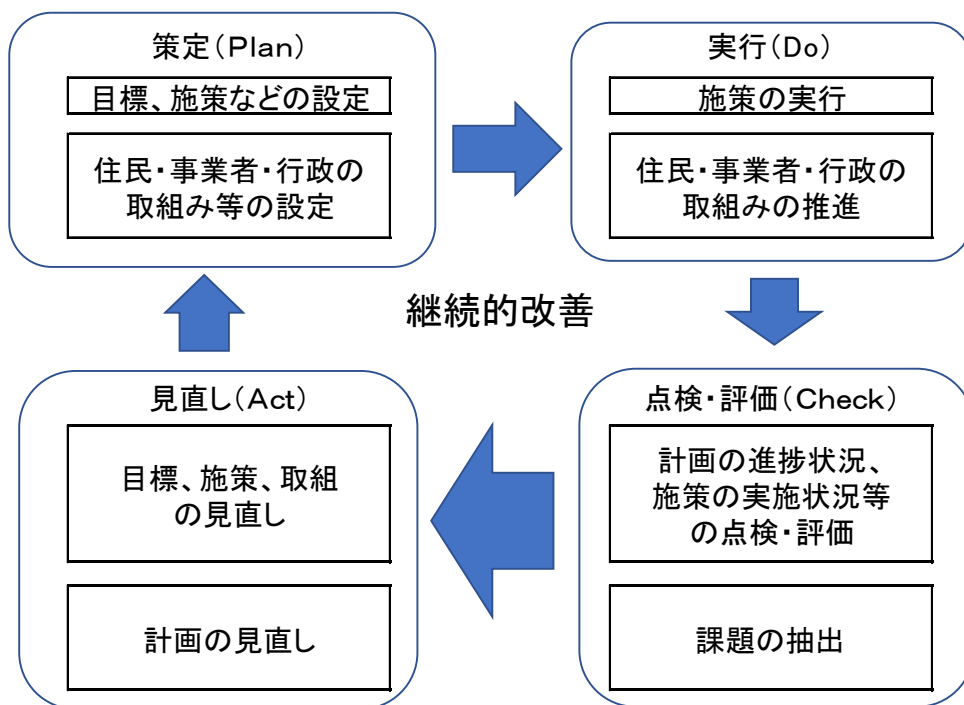
## 第4章 計画の進行管理

### 第1節 計画策定の目的

PDCA サイクルに基づく計画の進行管理は、次に示すとおりです。本計画を推進するためには、施策の進捗状況や達成状況等を点検・評価する仕組みが必要です。本計画は、進捗状況や達成状況を点検・評価を行うことにより、ごみ処理の継続的な改善を図ります。

計画の進捗状況は、『PDCA』サイクルを用いて把握します。この方法は、① 策定(Plan)、② 実行(Do)、③ 点検・評価(Check)、④ 見直し(Act)という手順を繰り返し行っていくことにより、その時点における計画の進捗状況や施策の実施状況の把握、課題の抽出等を行うものです。

このサイクルによる計画の点検・評価は、3年目(中間確認)、5年目(最終年度)に実施することとします。また、評価、見直しをしたときは、HP等で公開することで、広く市民や事業者にも周知します。このことにより、意見や提案をいただき、今後の施策に反映できるよう努めます。



## 第2節 進行管理の体制

本計画では、基本理念を実現するため、ごみの減量を推進することを第一とし、排出されたごみはできるだけリサイクルに回すことで、環境負荷の少ない処理を行うことを廃棄物行政の基本としています。

基本理念の実現に向けて本計画で提案する施策は、市民、事業者、行政の連携・協働により、公平な分担と連携のもとで効率的かつ効果的に推進するものとします。

### (1) 県、関係機関等との連携

本計画に基づく施策を推進していくうえで、県、ハ女西部広域事務組合構成市町、関係機関等に対して協力や要請を求める場合が想定されるため、今後も連携・協力体制の強化に努めます。

### (2) 市民・事業者等との連携

本計画の基本理念の実現を目指して、市民・事業者等との連携・協力ための体制づくりに努めます。

具体的には、市民や事業者の環境行政への理解と協力のもとで、ごみの分別徹底等による減量化・資源化を推進することにより、ごみの適正処理を継続していきます。また、市民や事業者との協働による取り組みを展開することにより、地域における資源循環と循環資源の有効利用を推進していきます。

このとき、市民・事業者・行政の三者が、ごみの排出や処理の現状、問題点を認識するとともに、本計画の基本理念や基本方針、目標等を共有し、交流やコミュニケーション、情報交換等を推進することで相互理解や情報の共有を進め、互いに連携・協力を図りながら、それぞれの役割とで責務を果たすものとします。

特に、ごみを排出する市民や事業者への『ごみ処理に要する経費』について、正しく認識してもらうことは、ごみの減量化・資源化への意識の向上に資するため、出前講座や施設見学を通して、ごみ処理には多くの経費を要すること、ごみの分別徹底によるごみの減量化・資源化の推進はごみ処理経費の削減に直結していること等を伝え、正しい情報を共有していくことで、本計画の施策を展開していきます。

### 第3節 進行管理の指標

#### (1) 基本指標

基本指標は、次にしめすとおりです。基本指標として、次の2つの指標で進捗状況を管理します。

#### 【基本指標】

目標1  ごみ減量化	さが西部クリーンセンターへのごみ排出量
目標2  資源化	資源化率（リサイクル率）

#### (2) 基本指標の目標値

中間及び最終目標年度における目標値は、次に示すとおりです。

	実績	中間目標年度	最終目標年度
	2023年度	2028年度	2030年度
目標1  さが西部クリーンセンターへのごみ排出量（t）	6,848	5,691	5,355
目標2  資源化（リサイクル）率（%）	20.3	22.5	25.5